

「花と妖精」

花き装飾コース

1. はじめに

私は幼い頃から花など、植物と触れ合ってきたことで植物が好きになった。恵那農業高等学校の園芸デザイン科に入学した。花の生産、販売の方法やラウンドやフラワーアレンジメントの制作を学んだ。花に関わることを仕事にしたいと思い、フラワー装飾の知識と技術向上のために国際園芸アカデミーに入学した。

入学後は花を束ねたり、フラワーアレンジメントなどの技術を磨いた。

フラワーアレンジメントや花束の制作をしていくうちにイメージを形にしていくこと、花と花との色合わせやバランスを意識して組むことが苦手だと分かった。

卒業後はフューネラル関係の仕事に就くため、卒業制作で苦手を克服しておきたいと思いブライダルブーケと髪飾りを制作することにした。制作作品は、私がアニメに出てくる小さくて可愛い妖精が好きということや妖精のようにキラキラしたブーケを制作したいと思い「花と妖精」として作品集をまとめることにした。

卒業制作を通して、イメージを形にする力を身に付け、就職後も花束や祭壇制作にその力を活かしていきたい。

2. 制作作品

(1)「大樹とエルフたちの談話会」



(2)「可憐に舞うロゼッタ」



(3)「妖精の初めての鞠遊び」



3. おわりに

花束を組むことや髪飾りを制作することに知識も技術も足りない中で、今回の制作に取り組んだ。沈めたほうが美しさの際立つ花材があったり、逆に出してあげることで花が活きたりと様々な見せ方があった。ヘアピースでは、グリーンではなく花を一番に目立たせることで、ポイントとなる部分ができ華やかになるなど、それぞれどこで何を意識したほうが美しく制作できるのかが違い、様々なことを学ぶことができた。

組んでみたいブーケの写真を、お手本に制作したが、考えているよりも堅苦しい作品になってしまうことが多く、想像を形にすることが難しかった。また、花の使い方や花選びでもイメージ通りにしたくて堅苦しくなってしまうことが多々あった。花の特徴を捉えてどう見せるのかを考えると具体的にどのように組んでいったら美しくなるのかが見えてきた感じがした。

制作中に深く考えることはなかったが、1つのブーケにかかってくる金額が市場の仕入金額で3,000円は超していることに気が付いた。市場の値段ということは生花店で販売する場合、2倍×利益を見込んだ金額になるため、1万円以上になるブーケも出てくるとわかった。実際にそれほどの実力があるのかと聞かれたら素直に「はい」とは言えないことから実力不足なことを改めて実感したが、技術料がしっかりと取れるほどの力を身に付けていきたいと感じた。

また、ネーミングではすごく時間をかけた。どんなネームならブーケと髪飾りのセットを購入したいと思っていただけるのか、どんなチャームポイントがあったらいいのかを考え続けた。結果、妖精までたどりつくことができたが、ネーミングの大切さを改めて実感することができた。

卒業制作を通してイメージを、想像や形にすることの難しさ、花の見せ方の大事さに気がつくことができた。自分にできることが増えたことで今後の自信に繋がったのではないかと感じた。